

令和7年度 第2回隠岐高等学校 魅力化コンソーシアム魅力UP委員会 議事録

開催日時 令和7年11月25日（火）14：35～15：20
会 場 隠岐高校 総合実践室
出席者 役 員 金井様、永島様、牧尾様、藤田様、石川様
委 員 大原様、原教頭、若林、福島
事務局 竹崎、石原

1. 部活動の方向性について

●現状の課題

- ・部員数の減少：入学者数の減少に伴い、各部活動の部員数が大幅に減少し、特に3年生引退後はその傾向が顕著。
- ・合同チームでの参加：男子・女子バスケットボール部や卓球部、文化部の一部（文芸、英語、美術）では部員確保が困難となり、運動部では近隣の高校と合同チームで大会に出場する状況となっている。

●協議事項（学校の提案）

- ・運動部の数を減らさない：運動部の有無が直接的な生徒募集に影響を与える（志願者の進学先決定に直結する）懸念があるため、数を維持する方向性。
- ・文化部の再編・集約：文化部について、数を減らす、または活動をまとめるなどして再編を検討してはどうか。

2. アルバイトの規制緩和について

●現状と課題

- ・現状の許可条件：長期休業中のみ許可しており、前提として成績に心配がないこと（欠点や「1」がないこと）を条件としている。
- ・成績条件に抵触する生徒のアルバイトを認めるかどうかの判断が課題。他県の学校では自由に認めているケースもあり、学校が個人の意思を制限する権限はどこまであるのかという疑問がある。
- ・生徒に社会経験を積ませることや、隠岐の島町内の企業の人材不足解消に高校生の力を役立てるという側面も考慮する必要がある。

●協議事項（学校の提案）

- ・許可条件の整備・緩和：生徒本人と保護者の両方の同意があれば、成績面に関わらずアルバイトを認める方向で進めたい。
- ・ただし、学業に支障が出ないよう、学校側からも指導や声かけを行っていく。
- ・長期休業中以外への拡大：平日の夕方など、長期休業中以外の期間についてもアルバイトを認めることが可能か。
- ・門限や安全管理の観点から、終業時間の検討が必要（例：夜10時まで）。

●委員からの主な意見

- ・アルバイトの経験価値：成績だけで制限せず、社会経験を積ませる機会として認める方向が良い。
- ・安全確保と指導：アルバイト先の選定（例：風紀上問題のある場所を避けるなど）や、終業時間について、学校と保護者が連携し、生徒に周知・指導することが重要。
- ・進路指導との連携：部活動やアルバイト、そして学力向上指導（効率的な学習方法の指導）といった様々な要素を、生徒募集や生徒の進路選択に繋げていくことが重要である。